

那須烏山市の近代化遺産を活用した 学習プログラム案の作成

足利工業大学 工学部 都市環境工学科
福島研究室(土木史研究室)
和田 明大 緑川 裕貴

1 はじめに

平成18年に公布された「新しい教育基本法」(文部科学省)に、新たに「伝統と文化の尊重、郷土を愛する」という目標が加えられた。これをうけ、現在、郷土愛の醸成を目的として全国各地の小学校で様々な地域史学習が行われている。また、「ゆとり教育」(1996年)等の実施により、子供達の工学離れが進行している。そこで本研究では、「郷土への愛着心をさらに育む学習」ならびに「工学離れの歯止めを狙いとした学習」として、「近代化遺産を活用した学習プログラム案」を作成することを目的としている。

2 那須烏山市の現状

那須烏山市は、平成17年10月に南那須町と烏山町が合併して誕生した。合併して間もない新市であることから“ふるさと”としての愛着心がまだ熟成されていないと考えられる。早期における新市としての融合を図ることが課題と考えられる。

3 地域史学習の位置付けとその取り組みについての調査・分析

(1) 国・県・市における「地域史学習」の位置付け

<p>○国 《学習指導要領、第4節社会科》 教育目標 ・先人の働きの理解 ・郷土への愛情や誇りを育む</p>	<p>○栃木県 《栃木県教育振興ビジョン》 ふるさと学習に必要な項目 ・ひと＝郷土の偉人・もの＝文化財 ・こと＝歴史上の出来事</p>
<p>○那須烏山市 教育理念 「これからの社会を担える 人材の育成」 教育目標 ・郷土を大切にすることを育む</p>	<p>地域史学習の内容 ・「昔の暮らし、今の暮らし」 ・「地域の先人の働き」 授業数：計18時間</p>

(2) 各地における「地域史学習」への取り組みに関する調査・分析

全国における小学校の地域史学習の事例として28校について学習内容を整理した。その内、宮城県東松島市立浜市小学校の「野蒜築港」を題材とした学習、また、地域史学習に関連する学習として「土木の絵本」を使用した小学校を重点的に調査した。調査した地域史学習の中での教員の工夫、それに対する子供達の反応を基に、学習プログラム案作成にあたって、子供達の理解に役立つと考えられる事項を抽出した。

4 近代化遺産を活用した学習プログラム案の作成

(1) 近代化遺産を活用することの意義の整理

近代化遺産は、身近な地域の歴史を物語るものである。また、歴史遺産の中でも時代的に新しい近代化遺産は、地域住民の記憶も新しく子供達への学習指導の協力も得られやすい等、地域史学習の対象として適していると考えられる。また、工学分野を含んでいることから、工学への興味を育むことが可能である。

(2) 活用する近代化遺産の抽出

鉄道に関連する遺産

・旧国鉄烏山駅舎 ・烏山通運櫓石造り倉庫群 ・森田トンネル

土木遺産(橋)

・境橋(オープンスパンドレルアーチ橋) ・興野大橋(ワーレントラス橋) ・烏山大橋(斜張橋)
※近代化遺産ではないが構造の理解のため

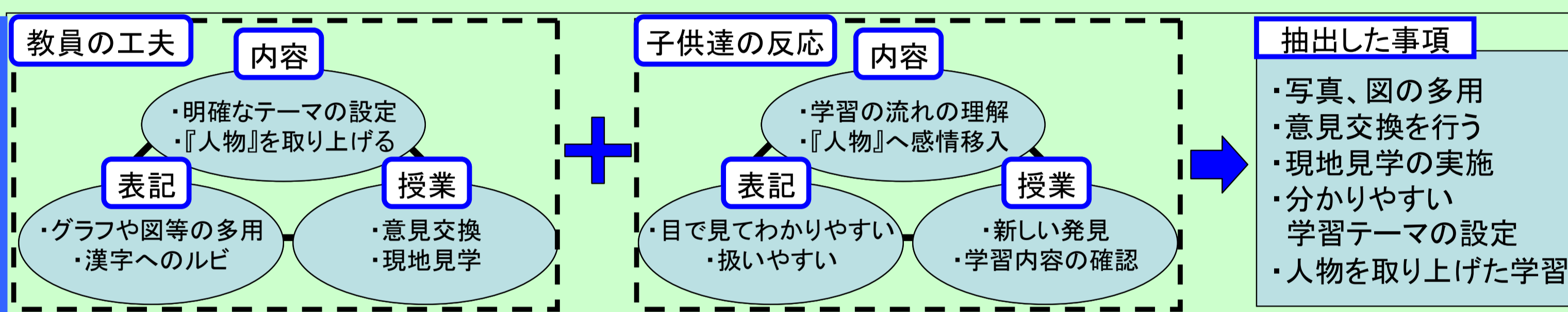
学習テーマの内容の一例

《鉄道遺産》
テーマ1: 烏山線創設の功労者

(烏山線の歴史)

《土木遺産(橋)》
テーマ2: 地域をつなぐ橋

(橋の建設による安全性や利便性等の向上)



(3) 学習プログラム案の作成

1) 近代化遺産を活用した学習プログラム案作成の目的

- ・近代化遺産を通して、那須烏山市の歴史を学び、郷土に対する愛情と誇りを育む。
- ・工学分野の解説を取り入れ、工学への興味を育む。

2) 鉄道遺産と土木遺産(橋)を活用した学習プログラム案の作成

対象とした遺産について、「郷土愛の醸成」「工学への興味」に繋がる可能性のある項目の抽出を行った。次に、抽出した項目を基軸に具体的な学習内容の検討を行った。これらを踏まえ、さらに、各地の地域史学習の事例を分析して得られた知見を取り入れ、鉄道遺産を活用したプログラム8テーマ、土木遺産を活用したプログラム10テーマを設定した。また、両プログラムとも、各々15時間の授業時間で構成した。

目的	項目	学習内容	取り入れた工夫	番号	学習テーマ	授業数	学習内容の一例
郷土愛の醸成	烏山線の歴史 地域産業 当時の生活 先人の地域への思い 烏寶線唱歌	烏山線開通までの苦労 鉄道への輸送機関の転換 たばこ、製糖、和紙の生産高 烏山線開通に関わった先人 鉄道の歴史・特徴 トンネルの歴史・構造 烏山駅舎の形式を調査 烏寶線唱歌を基に地図を作成 全24の内容を検討した	人物を取り上げた学習 図、表の活用 人物を取り上げた学習 図、写真の活用 現地見学 意見交換	1	烏山線創設の功労者	2時間	鉄道建設に関わった川俣英夫、新井萬吉、島崎善平、大橋清吉についての学習として、その人物の働きや鉄道開通までの苦心について学習を行う。
				2	烏山線による運送の変化	2時間	
				3	烏山の産業	1時間	
				4	地域の発展を支えた先人達	1時間	
				5	鉄道の始まり	1時間	
				6	トンネルの歴史	2時間	学習のまとめとして、烏寶線唱歌で歌われている史跡等を巡り、写真等を使って地図を作成する。その中で現在との違いなど気付いたこと等について話し合う。
				7	駅舎の役割と形式	3時間	
				8	烏山の街の変化	3時間	
工学への興味	橋と地域との関わり 先人の苦心 近代化に懸けた先達の情熱 景観の美しさ 那珂川の歴史 橋梁のデザイン 橋梁の構造の違い 橋梁の歴史 橋の大きさや長さ 見学・体験学習 工学と人の生活の関係	橋の細部を観察、意見交換 橋と渡しの輸送量、時間の違い 那珂川の洪水の歴史とその被害 明治、大正時代の境橋の構造 三代目境橋の構造と機能、安全性 設計者、施工者が今に遺したもの 橋建設発展の歴史、世界の橋 橋の仕組み等、図による解説 ポン・ヌフ等、絵画の中の橋梁 境橋のスケッチ、コンクールを実施 全22の内容を検討した	現地見学 意見交換(図・写真の活用) 人物を取り上げた学習 図、写真の活用 現地作業	1	市内の橋を見よう	2時間	初代、二代目境橋の構造を学習し、その弱点を話し合う。また、その中で舟橋、木橋の境橋の写真や図面を交え学習を行う。
				2	地域同士をつなぐ橋	1時間	
				3	那珂川の歴史	1時間	
				4	初代・二代目境橋	1時間	
				5	三代目境橋の誕生	2時間	
				6	設計者と施工者の功績	2時間	
				7	橋の歴史	1時間	
				8	橋にかかわる力	1時間	
				9	絵画に描かれた橋	1時間	
				10	橋のスケッチ	3時間	絵画に描かれた橋を学習し、学習のまとめとして境橋のスケッチを行い、校内でコンクールを開催する。

5 まとめ

- (1) 那須烏山市を事例として、2つの学習プログラム案を作成した。これらの作成にあたっては、全国の地域史学習の分析結果を基に、子供達の理解しやすい工夫を取り入れた。子供達にとって分かりやすい学習プログラム案の構成は、郷土への愛着心や工学への興味を育む可能性が、より期待できるものと考えられる。
- (2) プログラムを実施するに際し、コミュニティゲストとして地域住民のサポートによる解説の導入が、地域史学習の効果を高める大きな役割を果たすと考えられる。その仕組みを構築することが必要である。